

第2回 横浜市南区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会 会議録																	
日 時	平成 27 年 4 月 22 日 (水) 14 時 00 分～19 時 30 分																
開 催 場 所	南区役所 4 階 401・402 会議室																
出 席 者	北岡英子委員長、岩田春男委員、粟飯原勉委員、飯野忠明委員、上野まり委員、香西玲子委員、高羽貴子委員																
欠 席 者	なし																
開 催 形 態	公開 (傍聴者なし) ※ただし、議題の 1 「応募団体の面接審査について」の (3) 及び (4)、議題の 2 「指定候補者の選定について」は、非公開。																
議 題	1 応募団体の面接審査について (1) 応募団体のプレゼンテーション (2) 応募団体への質疑応答 (3) 委員間での意見交換 (4) 各委員による採点 2 指定候補者の選定について																
決 定 事 項	横浜市南区地域ケアプラザの指定候補者として、次の法人を選定し、横浜市南区長に報告することとする。 <p style="text-align: right;">(面接審査実施順)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="background-color: #90EE90;">施設名</th> <th style="background-color: #90EE90;">指定候補者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>横浜市中村地域ケアプラザ</td> <td>社会福祉法人秀峰会</td> </tr> <tr> <td>横浜市大岡地域ケアプラザ</td> <td>社会福祉法人横浜市社会事業協会</td> </tr> <tr> <td>横浜市睦地域ケアプラザ</td> <td>社会福祉法人たすけあいゆい</td> </tr> <tr> <td>横浜市六ツ川地域ケアプラザ</td> <td>社会福祉法人横浜大陽会</td> </tr> <tr> <td>横浜市永田地域ケアプラザ</td> <td>社会福祉法人横浜社会福祉協会</td> </tr> <tr> <td>横浜市浦舟地域ケアプラザ</td> <td>社会福祉法人横浜市福祉サービス協会</td> </tr> <tr> <td>横浜市清水ヶ丘地域ケアプラザ</td> <td>社会福祉法人横浜市福祉サービス協会</td> </tr> </tbody> </table>	施設名	指定候補者	横浜市中村地域ケアプラザ	社会福祉法人秀峰会	横浜市大岡地域ケアプラザ	社会福祉法人横浜市社会事業協会	横浜市睦地域ケアプラザ	社会福祉法人たすけあいゆい	横浜市六ツ川地域ケアプラザ	社会福祉法人横浜大陽会	横浜市永田地域ケアプラザ	社会福祉法人横浜社会福祉協会	横浜市浦舟地域ケアプラザ	社会福祉法人横浜市福祉サービス協会	横浜市清水ヶ丘地域ケアプラザ	社会福祉法人横浜市福祉サービス協会
施設名	指定候補者																
横浜市中村地域ケアプラザ	社会福祉法人秀峰会																
横浜市大岡地域ケアプラザ	社会福祉法人横浜市社会事業協会																
横浜市睦地域ケアプラザ	社会福祉法人たすけあいゆい																
横浜市六ツ川地域ケアプラザ	社会福祉法人横浜大陽会																
横浜市永田地域ケアプラザ	社会福祉法人横浜社会福祉協会																
横浜市浦舟地域ケアプラザ	社会福祉法人横浜市福祉サービス協会																
横浜市清水ヶ丘地域ケアプラザ	社会福祉法人横浜市福祉サービス協会																
議 事	1 応募団体の面接審査について *応募団体のプレゼンテーションを 15 分以内で実施した後、応募団体への質疑応答、委員間での意見交換、各委員による採点を実施。 (1) <u>横浜市中村地域ケアプラザ (社会福祉法人秀峰会)</u> (委 員) 開所して 10 年、地域ケアプラザが地域連携の中心となっていると思うが、アピールポイントがあれば教えてほしい。 (応募団体) 地域ケアプラザの活動は、地域の方々が中心であり、地域として活動を継続していくような方向性で進めていかなければならない。地域ケアプラザは縁の下の力持ちであり、地域の力をどのように引き出していくか、地域の活動団体のためにどれだけ貢献できるかが重要と考えている。その姿勢を貫いた結果、																

地域の方々の自主性をある程度見出せたのではないかと思います。これから若い方にも地域活動に参加してもらおう中で、この姿勢は大事にしていかなければならない。施設の運営についても、地域を把握しながら、どのように働きかけることが地域力を引き出すことにつながるかということに重点を置き、進めていきたい。

(委員) 若い世代で、福祉の担い手が少なくなっていくと思うが、若い世代を福祉分野に引き付ける具体策はあるか。

(応募団体) 地域活動のできる人材の発掘が重要だと考えている。どういうことが得意で、どういうことをやっている方がどこにいるといった情報を把握し、働きかけていくことだと思う。例えば、地域ケアプラザで事業を企画する際に講師をしてもらったり、お手伝いをしてもらったりすることにより、まず地域ケアプラザに足を運んでもらい、地域ケアプラザと連携していく中で、その方が地域においても活動できるように進めていくことが必要だと考えている。地域にどういるのか情報を把握すること、また、訪問や地域の催しに参加した際に情報を収集することが重要だと考えている。

(委員) 福祉保健活動団体への場の提供において、予約が重なった場合は、利用者同士の話し合いによって決定するということが大変な面もあるかと思うが、対応できているのか。

(応募団体) 地域の活動団体は、分かち合いの精神があり、話し合いによる大きなトラブルは今のところない。それでも決まらない場合は、くじ引きやじゃんけんで決めざるを得ない場面もあると思うが、大前提として話し合いにより決定している。

(委員) 話し合いにより気持ちよく利用できるというのは、良いことだと思われる。

(2) 横浜市大岡地域ケアプラザ（社会福祉法人横浜市社会事業協会）

(委員) 立地が良く、利用しやすい施設であり、障害者の作業所やグループホームの方とも付き合いがあると思うが、家族に障害児がいて困っているといった個別相談は受けているか。

(応募団体) 障害児の余暇支援事業「サンサンクラブ体操教室」を月2回実施しており、今年度も13人の児童が参加している。体操教室の良いところは、別室でお母さん同士が話し合える場の提供も行っているところである。話し合いの中で、お互いに悩みを解決したり、別のグループが立ち上がったたりもしている。地域ケアプラザに相談が入るというよりは、余暇支援事業で情報交換をしているということはあると思う。

(委員) 認知症について、介護保険の認定は受けていないが、家族が困っているようなケースもあるので、対策を是非進めてほしい。また、地域ケアプラザは、地域のネットワーク、顔の見える関係づくりが1番重要だと考えるが、地域の団体の定例会などにも積極的に参加しているのか。

(所 長) 所長と職員で役割分担しながら、様々な会議に参加している。

(委 員) 保健活動推進員や民生委員の定例会にも積極的に参加してもらおうと、活動の担い手と成りうる方とも顔がつながるので、よろしくお願ひしたい。

(委 員) 様々な自主事業を行っている一方、人材育成の研修にも力を入れているが、経済的な問題も含めて、工夫している点はあるか。

(応募団体) 収入を増やすために、デイサービスの利用者増に努めた。そこで得た収入を効率よく使うために、職員の研修受講が大事だと考え、収入を研修費に充てている。特に、非常勤職員は研修受講の機会が少ないが、ウィリング横浜の年間研修計画も活用しながら、職種、年数、キャリアに応じた研修を受講してもらっている。

(委 員) エコロジー活動にも熱心に取り組んでいると見受けられる。

(応募団体) 合築施設の大岡地区センター、南スポーツセンターと連携して取り組んでいる。エコロジー活動ではないが、施設の放置自転車対策にも力を入れ、気持ちよく利用してもらうために正面玄関の放置自転車を処分した。

(3) 横浜市睦地域ケアプラザ (社会福祉法人たすけあいゆい)

(委 員) 高齢化が進む中、地域の担い手不足の問題がある。講座を開催しても、参加してもらわなければ次につながらないと思うが、何か工夫している点はあるか。

(応募団体) 昨年度、担い手を増やす取組として、認知症のキャラバンメイトを地域の方にお願ひするという事でテーマを絞った。地域ケアプラザの事業に関わった方の中から、お願ひしたい方に個別に声掛けし、キャラバンメイトになってもらった。今年度は、その方々に認知症サポーター養成講座の講師をしてもらうことを考えている。介護予防事業においても、元気づくりステーションで自主化に向けて個別にお願ひしたい方には声掛けし、自主化につながっている事例もある。

(委 員) キャラバンメイトほどの程度集まったのか。

(応募団体) 3名。今までは高齢の方1名だけだったが、若い方が加わってくれたことで、活動が広がるきっかけになった。

(委 員) 地域活動交流部門で、高齢男性を中心に、地域と関わりの少ない方を対象とした事業があるが、男性に足を運んでもらうのはなかなか難しい。男性向けの囲碁や料理教室は、実際どの程度参加しているのか。

(応募団体) 男性の料理教室には、8名が参加している。参加男性には、地域ケアプラザの祭りで、何かを作ってもらうことなどをきっかけとして力になってもらえるとよいと考えている。

(4) 横浜市六ツ川地域ケアプラザ (社会福祉法人横浜太陽会)

(委 員) 小学生や中学生の事業への参加も活発で、様々な催しにたくさんの方

が参加している。若い世代が、地域で活動するためにどのような工夫をしているのか。

(応募団体) プレゼンテーションで紹介したのは、地域ケアプラザ事業ではなく、地域が行っている高齢者のお食事会などに、小学生や中学生のクラブの方に参加してもらったものである。地域ケアプラザでも、デイサービスや地域活動交流の自主事業の高齢者サロンにおいて、交流という名目で小学生に参加してもらっている。地域の若い世代にも、高齢者や介護分野に興味をもってもらうという点で有効な手段と考える。

(委員) 地域ケアプラザの広報誌がカラー版で、とても見やすく分かりやすい。事業に参加したいと思わせる広報誌を作っているが、工夫している点はあるか。

(応募団体) カラー版で、文字よりも写真を多用し、まずは目に留めてもらうことを心がけている。

(委員) 広報誌は、読んでいても様々な事業の紹介があり、見ていて楽しく、興味を持つ工夫をしている。事業についても地域と地域ケアプラザとが一体化している印象がある。

(委員) 現所長は地域によく出ており、そういう方に任せたいと期待している。

(応募団体) これからも地域に積極的に出向き、生の声を聞かせてほしいと考えている。

(5) 横浜市永田地域ケアプラザ (社会福祉法人横浜社会福祉協会)

(委員) 永田みなみ台地区の問題として、賃貸住宅の高齢化率が高く、ひとり暮らし高齢者が多かったり、民生委員の成り手がなかったりするが、提案書の「情報の取得や支援の方法を変える必要がある」という点で、具体的な方策はあるか。

(応募団体) 一街区は、分譲住宅に長く住んでいて、地域の担い手としても長く活躍されている方が多いが、二街区、三街区は外国人居住者も増えてきており、安定して担い手になってくれる方は少なくなっている。ただ、地域ケアプラザの活動の中で、集会に参加して、地域ケアプラザの活動やこういった取組が必要ということアピールさせてもらい、地域の方に興味をもってもらう活動を展開していきたいと考えている。地域が抱えている課題を地域の方に知ってもらい、興味を持ってもらい、解決していかねばならないと思ってもらうことで、地域ケアプラザと協力して取り組んでもらう関係を構築したい。

(委員) 職員が安定せず大変な時期もあったが、現所長も職員もよくやっていると見受けられる。

(応募団体) 一時期職員が安定せず、地域の方に迷惑を掛けてしまったことは、法人として大きな反省だ。福祉の原点は、人と人であり、法人にとっては職員が宝だ。法人としては、現場と腰を据えて関係を築かせてもらうことがなにより大切だと考えている。

(委員) 職員を大切にしているということだが、人材育成や研修について具体

的にどのように計画しているのか。

(応募団体) 福祉人材教育を強化しなければならないという考えのもと、平成 27 年 4 月より、全施設の人材育成を担う職員として、独立した人事担当という役職種を設けた。また、外部有識者の声も聴きながら、新人職員研修やフォローアップ研修、中間職研修、部下を育成することになった場合のコーチングを学ぶ研修などを導入している。これからも、感染症対策や事故防止の研修など、法人として質を担保する形で拡充していきたい。

(委 員) 職員は、他施設との異動や交流もあるのか。

(応募団体) 異動もあるが、異動できない職員には期限を区切った交換研修なども行っている。職員に刺激を与えるためにも、様々な方法をとっている。

(委 員) 認知症対応型の通所介護施設なのか。緊急の場合の対応は。

(応募団体) 認知症対応型ではない。ただ、法人が運営する特別養護老人ホームが近隣に 4 施設あるので、そういった施設も活用しながら、ショートステイや緊急ショートステイなども含めて対応している。

(委 員) 指定管理料は限られているが、資金面ではどうか。

(応募団体) 様々な施設を運営しているので、他施設と連携して研修を開催するなどして、限られた資金の効率的な活用を行っている。

(6) 横浜市浦舟地域ケアプラザ (社会福祉法人横浜市福祉サービス協会)

(委 員) 外国籍の方が多いということで、広報チラシの多言語版など工夫しているが、窓口で相談に来られた際は、どのように対応しているのか。

(応募団体) 中国籍の方の相談が多くなっているが、同じ浦舟複合福祉施設内にある多文化共生ラウンジに協力してもらい、相談時に通訳してもらうなど連携して対応している。

(委 員) 転入者も多く、外国籍の方も多いということで、新旧住民の顔の見える関係づくりが必要だと考えるが、具体的にはどのような対策を考えているのか。

(応募団体) 転入者の情報を把握するために現在取り組んでいることとして、不動産屋や薬局に地域ケアプラザのチラシを置かせてもらい、なにか相談があった場合は、地域ケアプラザに連絡をもらえるよう協力依頼している。新旧住民との顔の見える関係づくりについては、これから事業展開する中で、通訳の方に同席してもらい、外国籍の方も事業に参加してもらえるようなことを検討している。

(委 員) 同じ複合福祉施設内で、8階にある福祉保健活動拠点は利用しにくいといった話を委員から聞いたが、1階にある地域ケアプラザはどうか。

(委 員) 地域ケアプラザは1階にあるので入りやすい一方、用事のある階にすぐ移動してしまい、地域ケアプラザ内では何をしているのだろうと思うところはある。

(委 員) 防災対策にも力を入れているということで、浦舟地域ケアプラザのエ

リアは津波対策が重要だと思うが、情報伝達の訓練はどのように行っているのか。

(応募団体) 先日、津波が発生した場合を想定して、業務継続計画（BCP）の見直しを行った。津波の高さにもよるが、上階の施設とも連携して、利用者は2階に誘導したいと考えている。

市の防災計画でも、東京湾4メートル程度の津波が想定されており、南区は阪東橋の付近まで津波の影響を受けるだろうと言われているが、4メートルの高さであれば、2階以上に避難すればある程度安全は確保できると考えている。津波の高さによっては、さらに上階に誘導することを考えている。

(委員) 実際の避難訓練も行っているのか。

(応募団体) 机上訓練では、外部コンサルタントにも参加してもらい、津波発生時の初動対応や役割分担について確認し、計画を改訂した。実際の訓練という点では、年2回、消防の避難訓練と浦舟複合福祉施設全体の訓練をそれぞれ実施している。

(7) 横浜市清水ヶ丘地域ケアプラザ（社会福祉法人横浜社会福祉協会）

(委員) 現運営法人の事業は、単に引き継ぐのではなく、ある程度評価して引き継いでいくことが必要だと思うが、具体的にはどのように考えているのか。

(応募団体) 地域の特性を数値から拾い上げて、それに対する支援を理論的、継続的に行っていききたい。介護保険サービスに関しては、地域ケアプラザの隣に当法人が運営する特別養護老人ホームの南太田ホームがあるので、デイサービスを一体的に運営したり、サービスの差異をつけることで棲み分けを行ったり、継続して行っていききたい。

(委員) 職員も希望すれば引き継ぐということだが、待遇面はどのように考えているか。

(応募団体) 現運営法人の職員も、この地域の仕事が好きで地域とのつながりがあるということであれば、大切な資源と考えている。また、職員の処遇や生活は壊したくない。一方で、法人にも人事考課システムがあるので、それと照らし合わせて、個々の職員がどういう段階にあるか個別に判断することになるが、現状の生活水準を維持できる方向で考えたい。

(委員) 清水ヶ丘地域ケアプラザは高台に位置し、施設への足がポイントとなる。立地条件が似ている永田地域ケアプラザでの取組を生かして、施設に足を運ぶのを諦めている方々も取り込めるようにしてほしい。

(委員) 法人として、人材育成や研修に力を入れているということだったが、現運営法人の職員が新しく移った場合、環境の変化をどのようにフォローしていくか。

(応募団体) 組織が変わるとするのは、大きなストレスを伴うと思う。ただ、一体的に法人が運営するメリットを地域の方々に還元するのが第一で、そこではやり

方を統一するという手順は踏まなければならないと考えている。新人職員には、法人の文化を知る研修を2日間かけて行っている。そこから実務段階の研修や現運営法人で中間管理をされている方には、当法人の財務経理の情報を知る機会など、各職員の職層に合わせて、段階を経て、実施したいと考えている。

(委員) 現運営法人は、合築施設の中部地域療育センターの運営法人と同一だが、施設で運営法人が別となった場合、関係性をどのように考えているか。

(応募団体) 当法人は、浦舟複合福祉施設の特別養護老人ホーム天神ホームの運営実績があるが、共用部分の設備維持については、日々の話し合いが大事だと考えている。また、鶴見ワークトレーニングハウスや長野県の指定障害者支援施設といった障害分野の施設も運営しており、苦労や喜びを承知しているので、その尊敬を持って接したい。

(8) 横浜市清水ヶ丘地アプラザ (社会福祉法人横浜市福祉サービス協会)

(委員) 南区では既に浦舟地域ケアプラザを運営しているが、新たに清水ヶ丘地域ケアプラザに応募したということで、アピールポイントやモットーとしている点があれば教えてほしい。

(応募団体) 現運営法人が再応募しないかもしれないという情報を得て、現地見学会に参加したところ、ソフト面やハード面での課題が目についた。そのような中、区とも質問回答のやりとりをし、法人内部でも応募するべきか議論した結果、当法人の名前を出しても恥じない運営ができるのではないかという結論になり、応募に至った。当法人は18か所の地域ケアプラザを運営しているが、地域ケアプラザは地域とのネットワーク、地域に信頼され、愛されることが一番重要なことと考えている。清水ヶ丘地域ケアプラザで、その点を実現したい。

(委員) 現運営法人の事業の継続性や職員の引継ぎについては、どのように考えているか。

(応募団体) 現段階では現運営法人の職員の意向も確認できていないが、基本的には引き継ぐつもりでいる。介護分野は人材難で、全ての職員を準備期間1年で新たに採用するのは難しい。一般的には、地域活動交流事業のサブコーディネーターやデイサービスのスタッフは地域の方が多く活動しているので、その方々を抜きに今後の活動を継続させていくことは無理だと考えている。

事業については、内容を精査するが、地域から支持されている事業については引き継がれていくと思う。また、地域の方に足を運んでもらう、地域ケアプラザを身近な存在として感じてもらうために、新たに地域ケアプラザ祭りも開催したいと考えている。

(委員) 所長予定者は決まっているか。

(応募団体) 所長予定者は決まっていない。現運営法人の職員を引き継ぐ前提ではないので、指定管理者の指定を得てから検討したいと考えている。

(委員) 必要な人材は、確保できるのか。

(応募団体) 確保できると考えている。

(委員) 貴法人が運営している浦舟地域ケアプラザのプレゼンテーションでは、災害時の業務継続計画（BCP）をしっかりと作成していると感じた。浦舟と清水ヶ丘では立地条件も異なるので同内容ではないと思うが、どのように考えているか。

(応募団体) 業務継続計画（BCP）は、各地域ケアプラザごとに作成し、訓練をして、振り返りを行っている。

2 指定候補者の選定について

(1) 事務局より、採点表の集計結果を説明。

【集計結果】

(面接審査実施順)

施設名	応募法人	評価得点／満点
横浜市中村地域ケアプラザ	社会福祉法人秀峰会	1,001点／1,365点
横浜市大岡地域ケアプラザ	社会福祉法人横浜市社会事業協会	1,153点／1,400点
横浜市睦地域ケアプラザ	社会福祉法人たすけあいゆい	980点／1,365点
横浜市六ツ川地域ケアプラザ	社会福祉法人横浜太陽会	1,178点／1,400点
横浜市永田地域ケアプラザ	社会福祉法人横浜社会福祉協会	1,062点／1,400点
横浜市浦舟地域ケアプラザ	社会福祉法人横浜市福祉サービス協会	1,042点／1,400点
横浜市清水ヶ丘地域ケアプラザ	社会福祉法人横浜社会福祉協会	1,061点／1,400点
	社会福祉法人横浜市福祉サービス協会	1,062点／1,400点

得点が最低制限基準の60%以上のため、委員会として指定候補者に、

- ・横浜市中村地域ケアプラザは、社会福祉法人秀峰会
 - ・横浜市大岡地域ケアプラザは、社会福祉法人横浜市社会事業協会
 - ・横浜市睦地域ケアプラザは、社会福祉法人たすけあいゆい
 - ・横浜市六ツ川地域ケアプラザは、社会福祉法人横浜太陽会
 - ・横浜市永田地域ケアプラザは、社会福祉法人横浜社会福祉協会
 - ・横浜市浦舟地域ケアプラザは、社会福祉法人横浜市福祉サービス協会
- を選定することを決定。

また、得点が最低制限基準の60%以上で、得点が上回っているため、

- ・横浜市清水ヶ丘地域ケアプラザは、社会福祉法人横浜市福祉サービス協会
- を委員会として指定候補者に選定することを決定。

(2) 横浜市清水ヶ丘地域ケアプラザの応募法人についての意見交換

(委員) 社会福祉法人横浜市福祉サービス協会は、スケールメリットがあり、運営が安定するだろう。所長予定者が決まっていな中で、多数の地域ケアプラザの運営実績があるため、自信を感じた。社会福祉法人横浜社会福祉協会からは、熱意は感じられたが、実現性の点では疑問を感じる内容だった。

(委員) そういった意見もあるが、社会福祉法人横浜市福祉サービス協会は、どの施設にも通じる内容のあるべき姿しか提案がないように感じたが、社会福祉法人横浜社会福祉協会は、地域の実情をよく理解した上での提案だった。社会福祉法人横浜市福祉サービス協会の提案は、他の地域ケアプラザでの取組のよう、それを清水ヶ丘地域ケアプラザに単純に当てはめることができるのか疑問があった。

(委員) 社会福祉法人横浜市福祉サービス協会は、最初そのようにも感じたが、保育所や障害者施設など近隣施設の状況などをよく理解して事業提案していた。

(委員) 社会福祉法人横浜市福祉サービス協会が選定されたわけだが、提案内容が僅差であった点は選定された法人にも知ってほしい。

(委員) 社会福祉法人横浜市福祉サービス協会の今までの運営実績を信頼して選定したというのが、委員会としての理由だ。